

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602496		
法人名	有限会社 モクコーポレーション		
事業所名	グループホーム 銀の庵		
所在地	〒830-1122 福岡県久留米市北野町今山1104番地1 0942-78-0378		
自己評価作成日	平成27年12月07日	評価結果確定日	平成28年01月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294
訪問調査日	平成28年01月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

帰宅願望のある方にご本人が気が紛れるまでお散歩に付き添う。 請求書送付時にお手紙を添えご利用者のご様子をお伝えする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市郊外の自然が残る住宅街の中に、家庭的な雰囲気です。ユニット(定員9名)のグループホーム「銀の庵」がある。利用者と職員は、地域の一員として地域の行事や祭りに参加し、ホームの催し物や会議に地域の方や家族が参加し、相互交流の輪が広がっている。利用者の嗜好を聴いて調理上手な職員が作る手料理は、利用者の楽しみなひとりで、ほとんどの利用者が完食し健康の源になっている。また、協力医療機関の往診体制が整い、訪問看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、利用者の健康管理は万全で、主治医が24時間対応できる体制を築き、利用者の看取りも数多く経験し、職員のチーム介護と意識の高揚に繋げ、家族から高い評価と信頼を構築しているグループホーム「銀の庵」である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差した福祉づくり、その人らしい生活を送れるよう支援などを理念に掲げご本人やご家族の希望やご要望に沿うようサービスに努めている。また、理念が目につくようにトイレや事務所さまざまな所に貼っている。	ホームが目指す介護サービスのあり方を示した理念を作成し、目につく色々な場所に提示し、理念の共有を図っている。職員は理念を基に、利用者が地域の中で、その人らしく幸せに暮らす事ができるよう支援に取り組んでいる。	管理者、職員の入れ替わりがあった事から、改めてしっかりと理念を確認したり、振り返る機会を設け、理念の実践に繋げていく事が望まれる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などでのあいさつ	自治会に加入し、ゴミ置き場の掃除を行う等、地域の一員としての役割を果たしている。また、散歩の際には地域の方々と挨拶を交わす等、日常的に交流している。	運営推進会議に地域代表の参加があるため、情報を収集し少人数でも、地域の行事に参加できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて認知症の理解を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況などを報告し写真を用いて日頃の状況を報告するとともにヒヤリハット事故の報告も行っている。 また、その時に頂いた意見は申し送りやスタッフ会議で報告している	運営推進会議は、自治会長、隣組、家族代表、包括支援センター、市職員の参加の下2ヶ月毎に開催し、写真を提示しながら、利用者の暮らしぶりや取り組みの報告を行っている。ヒヤリハット、事故報告と改善に向けての取り組みを報告し、参加委員からの意見や感想を受け、ホーム運営に反映させている。	運営推進会議の参加委員の増員を図り、(民生委員や他事業所の管理者等)幅広く意見や情報交換を行い、サービスの向上に繋げていく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会などには出来るだけ参加し他事業所との繋がりを作りまた他事業所の取り組みなどを参考にしている	解らない事があったら問い合わせたり、行政主催の研修会に参加し、行政職員や他事業所との連携を図っている。また、運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学習会などを行い理解実行できるようにしている。	勉強会の中で、スピーチロックやドラッグロックを含めた具体的な禁止行為について話し合ったり、身体拘束に関する資料をコピーして回覧する等、意識づけを行い、全職員で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体で虐待について理解し虐待が起きないようにスタッフ間の声かけや体制づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議などで市役所や包括に依頼し権利擁護や、成年後見制度について説明して頂いている。	行政や包括支援センターに依頼し、権利擁護の制度についての説明を受けたり、勉強会の中で学ぶ機会を設け、理解を深めている。現在は、制度を活用している利用者はいないが、必要時には、関係機関と相談し、資料やパンフレットを基に、内容の説明や申請手続きを行う事ができる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご本人、契約者様、(ご家族)に契約書、重要事項説明書を読み上げ説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃より信頼関係の構築しケアを行っている。 また、ご家族にも面会時や請求書送付時、等に日頃の様子などを伝えている。報告の内容によってはメールでのやり取りも行って家族との信頼関係の構築にも努めている。	職員は日常の暮らしの中で、利用者の思いや要望を聴き取っている。家族の面会時や電話、メール等で報告を行い、家族の要望の聴き取りに努め、介護計画やホーム運営に反映させている。今年度は、管理者、職員の入れ替わりがあった事から、家族会を開催し、説明、報告を行っている。	利用者の写真を載せたホーム便りを発行し、日頃の暮らしぶりや行事予定、往診の日時等を伝える事で家族の来訪に繋げ、更なる信頼関係の構築に期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議では参加者が1回は発言できるよう心掛けています。	毎月1回、その日の日勤者と休みの職員が参加して、ケース会議や勉強会を含めた職員会議を開催し、活発な意見交換を行っている。出された意見は、ホーム運営や業務改善に活かしている。また、毎日の申し送り時に、職員の気づきや気になる事を話し合い、管理者、介護士長に報告し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与基準を定め人事管理を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は特に年齢制限は設けず30代から60代の年齢層となっており勤務体制も個々の条件を出来る限り汲み取るようにしている	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、幅広い年代から採用している。また、管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担を行い、職員が生き生きと働きやすい職場環境を目指している。また、介護福祉士の資格者も多く、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より人権尊重を意識しケアに取り組んでいる。	管理者が、管理者研修の中で学び、学んだ内容を他職員に伝達する事で、人権意識の共有を図っている。利用者一人ひとりが持っている価値観や生活習慣を尊重し、言葉遣いや対応に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者がその人らしい暮らしが出来るよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	1年に2回の研修レポートの提出を義務付けし ている。また、伝達講習も行いケアの向上に努め ている。		
16		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	グループホームの部会に所属し研修会講演会に 参加している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本 人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	アセスメントを密に行いご本人の希望やご要望を 傾聴しながら関係づくりをおこなっている。		
18		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 関係づくりに努めている	来所されたら日頃のご様子を伝え変化する希望や ご要望をお聞きするようにしている。 また、手紙、電話、メールでのやり取りも行ってい る。		
19		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人から希望や要望を聞き取ることは難しいた め今までの生活歴やご家族から時間を掛けお話 を伺いご本人にとって最適な支援は何か支援して いる		
20		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	日賞生活の中で一人一人の出来る事をスタッ フと一緒に楽しみながら行っている		
21		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	面会時間の規則を設けずご家族の来たい時間来 れる時間に来て頂いている。 また日頃のご様子など面会時等に報告しケアに対 する気持ちの変化などを伺っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人の話をしている。 また、実際になじみの場所に行っている	友人、知人の面会は少ないが、「家に帰りたい」「昔は此处によく行きよった」等、利用者の言葉に耳を傾け、自宅への帰宅や植物園等、馴染みの場所へ出かける支援に取り組んでいる。また、法人内の小規模多機能事業所から入居の利用者が数名おられ、小規模との交流時には再会を喜ばれている。	
23		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いがお互いを気遣えるような関係作りの支援をしている。 気の合う合わない等の配慮もテーブルに配置席替えも定期的に行っている。		
24		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方、終了になった方からのご家族からご相談があった場合は応じるようにする。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との何気ない会話などや生活歴を聴取しご本人のいままでのライフスタイルを出来る限り継続できるように努めている	職員は、利用者との会話の中から、思いや意向を聴き取り、家族と相談し実現に向けて努力している。意思の表出が難しい方に対しては、しっかりお話しして、ゆっくり待って、利用者の顔つきや表情を見て、思いを汲み取っている。	
26		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソン以外の家族にも話を伺ったり前任のケアマネなどからも情報収集に努めている。		
27		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残しその日あったこと言動活動の様子を職員で共有している。		
28	13	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずはご本人、キーパーソンとなるご家族より話を伺いそれに応じて必要となり機関と連携を図り計画書の作成をしている。	家族の面会時、又は電話で意向を聴いて、利用者の要望と合わせ、職員間で話し合い、短期3ヶ月、長期半年毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、家族、主治医、訪看、介護職員間で検討し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日したことや身体の変化など記録に残したその時スタッフがどのような対応をしたか記録に残している。 往診や訪問看護からの往診の内容はマーカーで囲む。夜勤者は赤で記入している。		
30		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化などにはご家族から話を伺っている。		
31		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族のほかにスタッフの子供との交流や以前利用していた施設との交流も行っている		
32	14	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望される医療機関の受診や状態の変化が見られた時は主治医にメールや電話で報告し往診をして頂くなど連携を図っている。	利用者、家族の希望を大切に、現在は1名通院介助、1名は家族による同行受診、その他は3ヶ所の提携医療機関による2週間毎の往診と毎週の訪問看護により、利用者や家族が安心出来る医療体制が整っている。	
33		○ 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の訪問看護時に状況や日々の健康状態の様子を伝え急変時等にはメールや電話にて初期対応の指示をもらっている。		
34		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には職員が病院に必要な情報を申し送りし 早期退院が出来るよう病院側と情報の共有をし再入所の受け入れの対応が出来るように努める		
35	15	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人ご家族から終末期に対する意向を伺うようしている。 面会の際には意思の変化や気持ちの変化がないか伺うようにしている。	契約時にターミナルケアについて、ホームで出来る支援の説明を行い、利用者や家族の意向を確認している。利用者の重度化に伴い、段階的に家族と話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で方針を共有して、利用者が安心して終末期を過ごす事が出来るよう取り組んでいる。これまで、数名の看取りを経験している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師に初期対応の処置の仕方を習ったりロールプレイでスタッフ同意学んでいる		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っている。 地域の方には避難の支援のお願いもしている。	避難訓練を年2回開催し、8月は運営推進会議後に、消防署と地域代表の参加、協力を得て、夜間想定訓練を実施し、消防署からは、リビングの中扉を閉めると延焼を防げる等の指導を受けている。避難後の見守りは、隣家の住民に声掛けし、お願いするようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に応じた言葉かけをし尊厳を傷つけないよう配慮している。	職員は、利用者の個性や生活習慣を把握し、利用者の尊厳や権利を尊重した、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の分かりやすい言葉でお聞きし自己決定が出来るように工夫した言葉かけをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間～就寝まで特に決まりを設けずにご本人の体調やペースに合わせている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品なども揃えいつでも使えるようにしている。また、誕生会などの行事時には希望があればスタッフがお化粧をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的なメニューは決まっているがご利用者からのリクエストや季節に応じた野菜や果物を取り入れた食事作りを行っている。また、好みに応じて出来る限りのメニューの変更をしている。準備や配膳お茶くみ、後片付けなども手伝って頂いている。	対面キッチンから聞こえる調理の音や匂いが漂う中、食事を楽しみにしながら、利用者は職員とレクリエーションや口腔体操に取り組んでいる。調理担当の職員が、利用者の好みを聞いて、手作りの美味しい食事を提供し、職員も同じ食事を一緒に食べて、和やかな食事の時間である。また、ホットケーキやたこ焼き、お好み焼き等を、利用者と一緒に作って食べる事にも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行っている。お茶を飲まれない方にはゼリーやご本人の好まれるお飲み物をお出ししている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、またはその方の状態に合わせて食事前の歯磨きを行い使用する道具もその方に合わせて物を使用している。 夜間は、義歯の洗浄を行っている。 訪問歯科とも連携をとり必要に応じ検診治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートを使用しトイレの介助が必要な方はその方の排泄パターンに応じた時間でトイレの介助をしている	トイレでの排泄を基本とし、オムツ使用の方も、排便の調子を見ながら、時々トイレで排泄出来るよう努めている。また、下着の上げ下げ等、時間をかけて声掛けしながら、利用者自身に行ってもらい、自力で出来る部分を取り上げないようにしている。メーカーによるオムツのあて方の勉強会を実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄シートで最終排便の確認を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は基本的に決まっているが入浴日以外にもご本人の希望があれば柔軟に対応している。	入浴は週2、3回行い、夏場は毎日入りたい人にも柔軟に対応し、音楽をかける等、入浴を楽しむ事ができるよう支援している。拒否のある方には、「ちょっと、体重計りましょう」と誘ってみる等、声掛けを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けずご本人の希望に合わせている。 また、寝具類も今まで使っていたものなどを持ってきていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者税分のお薬の説明書をファイルして薬の変更などがあれば差し替えている。 また、お薬手帳の活用もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などお一人お一人に役割を持って生活して頂いている。		
51	2.1	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出来るだけ外出できるように支援している。	天気の良い日は、近所の散歩に出かけ、地域住民と挨拶を交わしたり、庭の花を見て楽しんでいる。また、近隣のスーパーに買い物に行ったり、花見を兼ねたドライブ等、気分転換に努めている。また、家族の協力を得ながら、自宅への帰宅や外食を楽しむことができる支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人のみ現金を持っている。 買い物時等の支払いの時にホームのお金を渡し支払って頂くようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時に電話をしている。		
54	2.2	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは常に電気をつけ分かりやすいようにしている。 また季節に応じた花や壁画も飾っている。	静かな住宅地の中に溶け込んだ、家庭的な雰囲気のホームである。利用者と一緒に作った貼り絵や風景写真等を飾り、温かな雰囲気の中、「おはようございます」という、利用者の元気な朝の挨拶から、一日が始まっている。また、照明や音、温度、換気に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えを行っている。 また、仲良い方や苦手な方などの席への配慮もしている。		
56	2.3	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物の持ち込み以外特に持ち物の制限はせずにご本人の安心できる物やなじみの物を持ってきて頂いている	利用者の馴染みの物を、家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が落ち着ける状態に整えている。また、利用者の状態に合わせて、ベッドの位置を工夫する等して、利用者が安全に過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が解るように名前札や顔写真などを貼っている。		